

ISO26000に沿った活動報告

コミュニティへの参画およびコミュニティの発展

シチズングループは「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念のもと、良き企業市民として、地域社会との共生を大切に、社会貢献活動に努めています。また、事業を通じて社会課題に取り組み、国際社会の一員としての責任を果たすとともに、企業の発展も実現することで、持続可能な社会の構築に取り組みます。

途上国の女の子支援

シチズン時計は、国際NGOプランが推進する途上国の女の子や女性を支援する「Because I am a Girlキャンペーン」に2013年より賛同し、シチズン『xC(クロスシー)』の売上の一部を寄付するなど、その活動を支援しています。

2014年10月11日の「国際ガールズ・デー」には、『CITIZEN xC for Because I am a Girl』スペシャルモデルを発売しました。

2014年に集まった寄付は、「パキスタンにおける女の子のための教育プロジェクト」「マリにおける女の子の早すぎる結婚対策プロジェクト」に活用されました。パキスタンのイスラム女子学校では、教室および給水・衛生施設の改修など教育環境が改善されたことにより、当初は1,000人だった児童が、現在約1,300人まで増加しました。

これからも、商品の企画・広告・販売を通じてキャンペーンの普及をサポートしていきます。



新しい教室で授業を受ける女子生徒たち



寄付はイスラム女子学校の改修に

公益財団法人プラン・ジャパン
<http://www.plan-japan.org/>

映画上映会の開催

シチズンホールディングスCSR室では、シチズン『xC(クロスシー)』が途上国の女の子たちを支援する意義を従業員へ伝えるとともに、社会課題解決への理解を深めてもらうべく「Girl Rising ～私が決める、私の未来～」の社内上映会を2014年8月に開催しました。

映画では、早すぎる結婚や、貧困、女子教育を阻むさまざまな障壁など世界の女の子が直面する状況、そして彼女たちの持つ可能性が描かれています。参加者からは「Because I am a Girlキャンペーンを支援することに誇りを感じた」など、女の子や女性の人権について考え理解を深めました。



シチズングループ従業員による「Raise Your Hand」*

* 世界の子の教育とエンパワーメントのために、自分の手を上げる姿を通して国際社会に働きかける参加型アクション

「シチズン・オブ・ザ・イヤー」25周年

市民に感動を与え、市民社会の発展や幸せ、魅力づくりに貢献した市民を選定し、毎年表彰する「シチズン・オブ・ザ・イヤー」が、2015年1月に25回目の表彰式を迎えました。

この賞は、シチズン創立60周年の記念事業を検討していた1990年に、社名のCITIZEN(市民)にふさわしいことにこだわり、企業理念に沿った内容を模索した末に創設された制度です。

これまで社会貢献、国際貢献、自己実現、人命救助、環境保護と実にさまざまな活動に取り組んだ76名(グループ)の方々を顕彰してきました。



シチズングループは、これからも社会に感動を与えてくれた市民に光をあて、活動をたたえエールを送っていきます。

第25回「シチズン・オブ・ザ・イヤー」受賞者

<http://www.citizen.co.jp/coy/index.html>

阪井 ひとみさん

社会的支援が必要な人たちに、生活の基盤となる住まいを提供

19年前から、精神障がい者を中心に、身体障がい者、刑余者、ホームレス、DV被害者、身寄りのない高齢者といった社会的支援が必要な人たちの入居支援や、自立し、地域で安心して暮らしていけるよう、医療や福祉関係者、弁護士、不動産業者、行政と連携しながら生活をサポート。その数はこれまで約450人に達する。



本間 錦一さん

水難救助の豊富な経験と技術で、40年にわたり海水浴客の命を見守る

年間10万人以上の海水浴客が訪れる新潟県村上市の瀬波(せなみ)温泉海水浴場で、87歳という高齢でありながら現役のライフセーバーとして海水浴客の命を毎年見守っている。豊富な経験に裏打ちされた水難救助技術で、これまでに約50人を救助している。また、後進の指導も熱心で、120人以上のライフセーバーを育成。



原田 燎太郎さん

元ハンセン病患者を支援し、生活改善や差別・偏見の解消に取り組む

中国で電気・ガス・水道に不自由し、家は古くトイレもないという過酷な環境での生活を余儀なくされている、かつてのハンセン病の隔離村に暮らす元患者たちに、ボランティアの学生を派遣し、道路や水道の整備、トイレの設置、家屋の修理などをしながら交流するワークキャンプ(合宿型ボランティア)を10年間継続している。



高山 良二さん

地雷・不発弾処理とインフラ整備や人材育成に取り組む元自衛官

内戦の激戦地だったカンボジアのタエサン村で、住民自ら地雷処理を行う「住民参加型地雷処理事業」に取り組み、地域の安全と復興に住民自らが貢献するというプロジェクトを推進。その上で、井戸や道路の建設、地場産業の育成や学校建設などインフラ整備から教育・人材育成にまでわたる復興事業にも住民たちと取り組む。

